

< 2017年度 各学部FD活動 >

	2017年度FD活動	2016年度の総括
法学部	<p>・2016年度は懇談会を1回しか開催できず、法学部としてのFD活動は不十分なものであった。そのため、学部長と相談のうえ、今年度は従来通り年間数回実施する予定である。</p>	<p>・9月15日教授会終了後、「18カリにおける養成する人材像」というテーマで教員に関する懇話会を実施した。そこでは、授業のあり方や中身をよくするため、その前提として「養成する人材像」をどのように設定するかの意見交換を行った。</p>
経済学部	<p>2016年度FD活動と同様に、学部内FD学習会を開催し、積極的に外部FD研修に参加する。</p>	<p>1. 経済学部学外FD研修参加状況 名古屋大学高等教育研究センター第137回招聘セミナー「学生に質の高い学びを保障する大学教育のあり方」、京都大学「大学教育研究フォーラム」、大学コンソーシアム京都「FDフォーラム」（京都府立大学）ほか参加研修合計29件に参加した。</p> <p>2. 経済学部内FD学習会 2017年1月26日（木）教授会終了後に「アクティブラーニング型反転授業の一例」と題して栗原裕先生に講演していただいた。動画による事例紹介など参考になるものが多く、具体的な活用方法についての質問が出され、予定時間を超過して学習を進めることができた。</p>
経営学部	<p>1. 新入生歓迎会の実施 ・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 ・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生FD委員の参加により実施</p> <p>2. FD懇話会の実施 ・前年度と同様FD懇話会を実施予定</p>	<p>・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4月1日開催）は、経営学科・会計ファイナンス学科から募集した学生スタッフ（学生FD委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。</p> <p>・第9回教授会（9月2日開催）において、FD懇話会を行った。懇話会では、学生相談室担当者を教授会に招くことはできなかったが、名古屋学生相談室兼相談員から学生が抱えている問題点等について報告を受けた。報告後には議論を行い、今後も学生の状況について構成員間で情報・意見交換を行う必要性を確認した。</p>

< 2017年度 各学部FD活動 >

	2017年度FD活動	2016年度の総括
現代中国学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート 卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートは継続して行い、2018年度カリキュラムの細かい運営レベルでの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行う。</li> <li>・授業相互見学について 原則として一人一回は年度内に他の教員の授業見学を行うこととし、各人の授業改善につなげる。</li> <li>・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。</li> <li>・入門演習ガイドブックの改訂 入門演習担当者・既習学生からの意見聴取に基づき、ガイドブックの改訂を行う。</li> <li>・グローバル人材育成推進後継事業との連携 日本理解・発信能力の養成、各種事業公開報告会など、グローバル人材育成推進後継事業との連携を通して、様々な方面で授業改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート 卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートは継続して行い、2018年度カリキュラムの編成に向けて教学検討委員会で検討討議を行い、新カリキュラムに反映させた。</li> <li>・授業相互見学について 原則として一人一回は年度内に他の教員の授業見学を行うこととし、広く実施された。聴き取り票によって授業改善に向けて大きな示唆を得たことが確認されている。</li> <li>・グローバル人材育成推進事業との連携 中国語教材の改訂、日本理解・発信能力の養成など、同事業との幅広い連携のもと、グローバル人材育成につとめ、成果を得た。</li> <li>・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげた。</li> </ul>
国際コミュニケーション学部	<p>&lt;英語学科&gt; 2017年度は語学の授業で教員同士が授業参観を行い、お互いに意見を述べあい、それを記録し、学科会議で報告する。そしてそこで出た意見をもとに授業改善に役立てる。</p> <p>&lt;比較文化学科&gt; 1. 学科会議における、教学や学生に関する情報交換会の日常的な実施を継続し、問題の掌握に努める。 2. 在学生に対する学科独自のリサーチを実施し、問題点を洗い出す。 3. 1, 2を受けて、特定のテーマを設定したFD活動学習会・懇談会を実施する。</p>	<p>&lt;英語学科&gt; 2016年度は英会話の授業でお互いに授業の参観を行い、授業内容、進度、教え方等について意見を述べあい、授業の質を高める努力をした。学科会議での報告を行うことができた。</p> <p>&lt;比較文化学科&gt; 学科会議において、各教員が気付いた学生の問題点や授業運営上の問題点等を持ち寄って情報交換を実施し、対応を検討した。また、在学生等から問題点等の事例について情報収集し、学科会議に諮りながら対処した。これらの内容について学科会議等の場で日常的に懇談会を実施することで、様々な問題を早期発見・対処・情報共有できたことは、学科として有意義な活動であった。</p>

< 2017年度 各学部FD活動 >

	2017年度FD活動	2016年度の総括
文学部	<p>1. FM豊橋における文学部の教育・研究内容の提示を通じて、教育のあり方の検討と教員の自己研修</p> <p>2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施</p> <p>3. 図書館との連携によるFD活動 ラーニングcommonsの活用を検討や、教員向け図書館ツアーの開催による、図書館とのFD連携活動</p> <p>4. 新しい教育のあり方についての検討 文科省の教育改革などの文脈を学習し、これに対応する戦略を検討する。</p>	<p>1. FM豊橋における文学部の教育・研究内容の提示を通じて、教育のあり方の検討と教員の自己研修</p> <p>2016年度も引き続き、コース内での複数教員による取り組み（日本語日本文学コース、心理学コース）、教員と学生によるコースの教育の取り組みの紹介（歴史地理学コースの教員と学生のコラボレーション、社会学コースの社会調査実習報告、現代文化コースの卒論討論会の紹介）など、専攻の枠を超えたり、教育の現場を紹介したり、アクチュアルなテーマを意識した企画を行った。</p> <p>2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施</p> <p>7月21日（木）教授会終了後 第16回人文社会学と現代に関する研究会 「なぜ、映像の歴史が人文社会学の現在にとって重要なのか？」 （報告）大久保 遼 助教 （司会）樫村 愛子 教授 （コメンテーター）山田 晋平 准教授</p> <p>3. 新しい教育のあり方についての検討</p> <p>引き続き、現代文化コースや社会学コース等において、チーム・ティーチング、ワークショップ型授業などに取り組んだ。</p>

< 2017年度 各学部FD活動 >

	2017年度FD活動	2016年度の総括
地域政策学部	<p>&lt;年度目標&gt;</p> <p>(1) 演習科目群における授業の改善を図る。                      (2) 学部開設6年の経験をふまえ、学部の特色ある教育の成果を振り返り課題を探る。                      (3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。</p> <p>&lt;活動方法&gt;</p> <p>(1) について                      担当教員の交流を促進し、教育の質の向上に取り組む。従来の学習法担当者会議、研究法担当者会議に加え、ゼミナールの担当者の経験交流の場を設ける。とくに研究法やゼミナールでのアクティブラーニング、PBLの経験交流を図る。</p> <p>(2) について                      ①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を話し合う。                      ②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義や課題を話し合う。                      ③アクティブラーニングやPBLの取組み成果や課題を話し合う。                      ④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。</p> <p>(3) について                      教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。</p>	<p>2016年度の地域政策学部の学部FD活動は、3本柱の年度目標を掲げ、概ね遂行することができた。これらの年度目標は、本学部の恒常的に行うFD活動内容であることから、2017年度も引き続き、同じ年度目標を掲げ、教員の資質向上を目指したい。</p>
短期大学部	<p>1. 学内の授業評価アンケート以外に、「基礎演習」、「発想・議論演習」、「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」において、短大独自の授業アンケートを実施する。</p> <p>2. 初年次教育の支援及び短大での「学び」を充実させる目的から、短大必修科目等において、図書館や大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）、語学教育研究室（ランゲージカフェ）等のガイダンスを積極的に活用する。</p> <p>3. 教育環境や学生生活の改善と向上を図るため、学生支援に関連している事務部門及びセンター等との連携を強化し、教授会の機会を活用して、短大生を取り巻く諸課題についての意見・情報交換等を行う。</p>	<p>1. 学内の授業評価アンケート以外に、短期大学部の必修科目について、それぞれ短大独自の授業アンケートを実施した。</p> <p>2. 初年次教育支援として「基礎演習」の時間に、図書館や大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）、語学教育研究室（ランゲージカフェ）等のガイダンスを積極的に活用し、新入生に対して学びの共通化を推進した。</p> <p>3. 教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、教授会の機会を活用して、短期大学部生の悩み・相談の現状やその対応について、豊橋学生相談室と意見・情報交換を行った。</p>